**チェコ統計局：1月のチェコ生産者物価指数**

チェコの生産者物価指数は、1月も前年同月比で数十％の上昇が続き、農業では25.5％、鉱工業では19％、建設業では11.4％の上昇となった。また、企業向けサービス業も前年同月比で6.3％上昇した。

（画像）

農業では、前年1月と比べてジャガイモ（43.1％）や卵（82.7％）の価格が大きく上昇。穀物生産全体では17.7％の上昇となり、野菜も39.1％、穀類は27.5％上昇した。一方、果物の価格は7.4％低下し、油糧種子も2.2％低下した。家畜生産では価格が37.8％上昇し、前年同月比の価格上昇率の過去最高を記録。豚肉は51％、鶏肉は29.1％、牛乳は36.4％、牛肉は19.7％の上昇となった。

鉱工業では、電気・ガス・蒸気・空調の価格が35.7％、硬質炭・褐炭・亜炭の価格が82％上昇。チェコ統計局産業・貿易価格統計部のヴラジミール・クリメシュ部長によると、鉱工業の物価上昇に最も影響を与えたのはエネルギー価格で、これを除く鉱工業生産者の物価指数は、前年同月比で13.3％上昇。電気や石炭以外にも、上水道は16.3％、食品は29.1％、自動車は6.2％の価格上昇となった。

建設業の資材や製品などの物価指数は、前年同月比で14.3％上昇。サービス業では、前年同月比で雇用関連が27.6％、プログラミングが9.1％、倉庫・輸送関連が5.5％、広告・市場調査が6.4％上昇した。

1月の製造業の物価指数についてクレディタス銀行チーフエコノミストのペトル・ドゥフェック氏は、インフレの波が継続していることを裏付けるものであり、好ましい結果ではないと述べた。そして、前年同月比での数字が下がったことは喜ばしいものの、これは比較対象である前年同月の数字が高いことによるものと説明した。

トリニティ銀行チーフエコノミストのルカーシュ・コヴァンダ氏によると、生産者物価の上昇は、消費者物価の上昇を予感させるものだという。そして、生産者物価がこれほど大幅に上昇するとは専門家の誰も予想していなかったとし、これもチェコ中銀に対する金利引き上げの圧力になると述べたものの、中銀が金利を引き上げるとは考えていないという。

前月比での生産者物価指数は、ほとんどの業種で上昇。農業では1.7％、鉱工業では5.8％、建設業では0.6％上昇し、企業向けサービス業のみが0.3%低下した。

情報元／zdroj：

チェコ通信ニュースサイト「チェスケー・ノヴィニ」　2023年2月28日掲載

„*Ceny výrobců v Česku v lednu dál rostly o desítky procent*“

(<https://www.ceskenoviny.cz/zpravy/ceny-vyrobcu-v-cesku-v-lednu-dal-rostly-o-desitky-procent/2331987>)